



## 防御装置を持つJR東海の年休制度 年休問題講演会に参加！

JR総連主催の年休問題講演会「本来の年休回復のために」が7月28日、目黒さつきビルで開催され、JR東海労から積極的に参加しました。会場に来れない組合員はWebにより講演会を傍聴しました。

闘いの報告としてJR東海労より木下委員長は、この間の年休裁判で法廷での闘いと職場との闘いを結合させて闘ってきたこと、年休制度の異常性、要員不足を始めとする職場実態などについて報告しました。また「勤務・年休発表5日前」を解消させてきたことなど、闘いの成果も報告しました。

講演は「時季指定権の防御装置としてのJR東海年休制度」と題し、ジャーナリスト・和光大学名誉教授の竹信三恵子先生より受けました。講演内容は、年休制度がつくられてきた歴史、年休に対する国際的な価値観を紹介した上で、JR東海の年休制度について「幾重もの防御装置ともいえる仕組みにより、保障されているはずの時季指定権を跳ね返す作用がある」と指弾しました。そして最後に、年休裁判は働く人々にワークライフバランスを回復させる出発点になるか、私生活を断念して日本社会の病理を悪化させるかの分岐点になる重要な裁判であると訴えられました。

